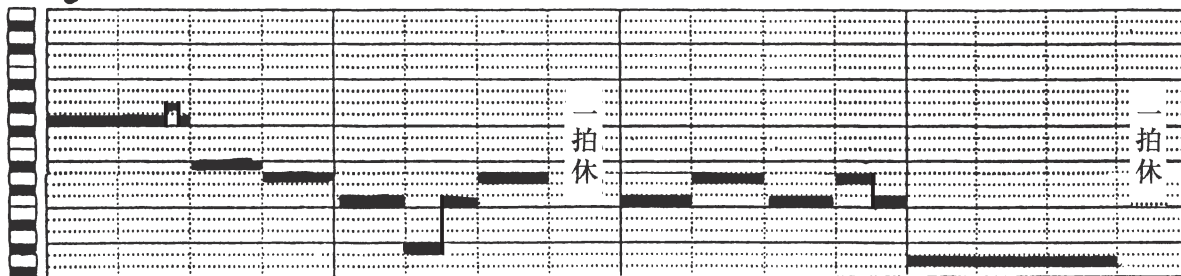


# かたみとての御詠歌

秦 氏 君 御作  
松 濤 基 作曲

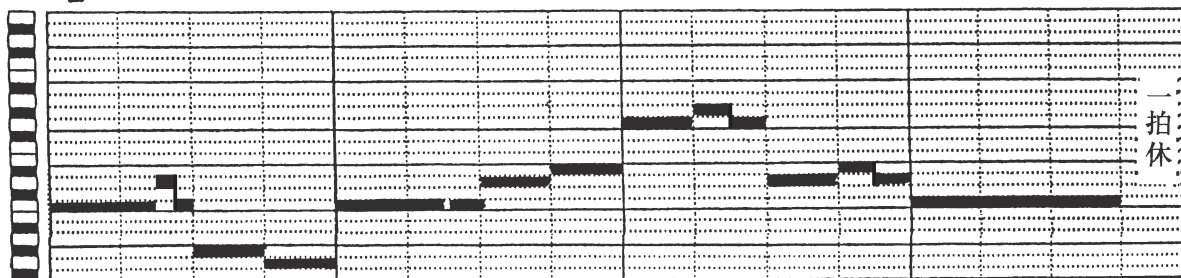
やさしく 普通の速さにて

*mf*



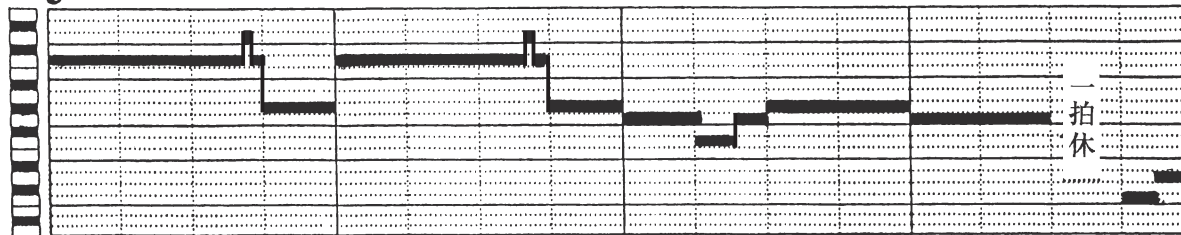
○ × ○ × ○ × × ○ ×  
か た み と て か た み と て

*mp*

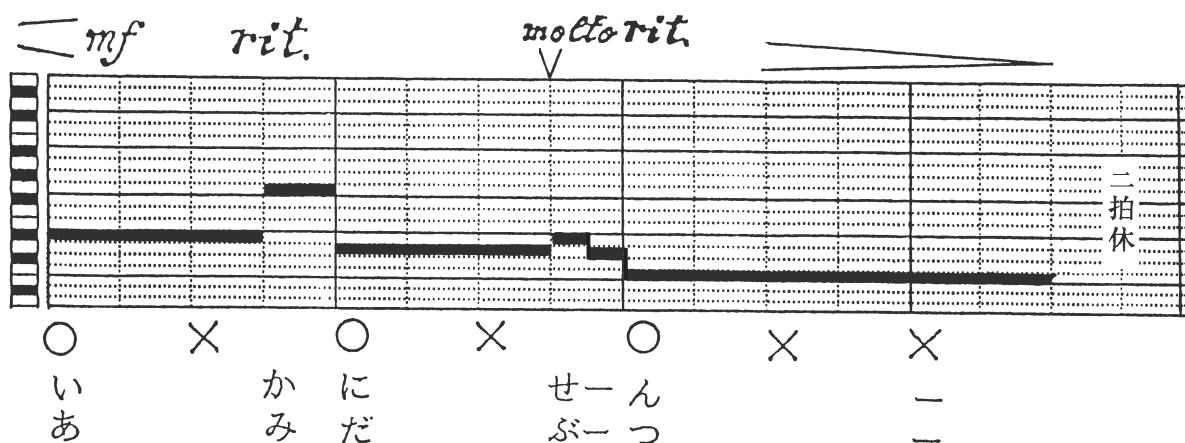


○ × ○ × ○ × × ○ ×  
は かな き お や の と ど め て し

*f*



⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ○ ×  
こ な の わ か れ さ え 又 な む  
な む む あ み だ ぶ つ



### ポイント注意

- 1小節目の「こぶし」は弱音で「た」を強く、9・10小節目の「こぶし」は力強い声から「の」「か」を弱く表現します。

(歌詞と解説は 38 ページ)

# かたみとての御詠歌

はた 秦 氏 君 御作

かたみとて はかなき親の とどめてし この別れさへ またいかにせん

このお歌は法然上人の母、秦氏君がお詠みになりました。

法然上人は長承2年(1133)4月7日、美作の国(現在の岡山県)久米南条稻岡庄にお生まれになりました。父は漆間時国公といいます。この日、屋敷の棕の木に白い幡二流れが掛かり7日の後、天に上り去りました。この奇瑞は仏天がお誕生を喜ばれたことを示しています。幼名は勢至丸と付けられました。

勢至丸9歳の時、明石源内武者定明の夜討ちに遭い、父時国公は深手を負います。死に臨み「敵を恨むなかれ、はやく出家して、私の菩提を弔い、自らの解脱を求めよ」と遺言なされます。勢至丸は、同国菩提寺の観覚の弟子となりました。この方は秦氏君の弟、勢至丸の叔父にあたります。菩提寺にて修行すること数年、叔父観覚は勢至丸の学才を見抜き、比叡山延暦寺で修行することを勧め、勢至丸も同意しました。

観覚と勢至丸は母秦氏君の所へ行き、比叡山に登ることの許しを求めます。母秦氏君は道理に折れて承諾しますが、気持ちの上では別れの悲しみを抑えることが出来ません。その思いを詠まれたのがこのお歌です。

大意 夫である漆間時国公と死別した辛さを経験した私です。父親の忘れ形見として残し置かれたこの子勢至丸が、父の遺言に従い仏道を歩んでいます。今勢至丸は比叡山へ行き更に高い仏道修行を目指しています。弟観覚の住持する菩提寺にいます。ならすぐにも会えますが、ここから遠く、しかも女人禁制の比叡山では会うこともできません。長い別れになるでしょう。我が子の学業成就を願う私ですが、夫と別れ、またさらに子供とも別れる私の辛さも分かってください。

(図表は 36 ページ)